

第2学年 英語活動学習指導案

指導者 京都市立明德小学校 学級担任 谷口 愛

1 日 時 令和7年6月20日(金) 第5校時(13:45～14:30) [教室]

2 学年・組 第2学年2組(31名)

3 単 元 名 Unit1 いくつかなクイズをしよう

4 目標

① 単元の目標

学級の友だちとさらに仲よくなるために、相手に伝わるよう工夫しながら「いくつかなクイズ大会」をすることを通して数を尋ねたり数えたりする。

② 関係する領域別項目

聞くこと	イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現を聞き取るようにする
話すこと [やり取り]	ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

③ 関係する言語材料(下線は新出表現)

表現 Hello. How many? (one, two, three, four, five, six, seven, eight, nine, ten) Yes./No. Thank you. Good bye.

語彙 数 (one, two, three, four, five, six, seven, eight, nine, ten)

動物 (dog, cat)

5 単元の評価規準

聞くこと	知技・数の言い方や、How many? Yes./No. などの表現を聞くことに慣れ親しんでいる。 思・友だちとさらに仲良くなるために、数を尋ねたり数えたりする表現を聞いて意味が分かっている。 態・友だちとさらに仲良くなるために、数を尋ねたり数えたりする表現を聞こうとしている。
話すこと [やり取り]	知技・数の言い方や、How many? Yes./No. などを用いて、数を尋ねたり数えたりすることに慣れ親しんでいる。 思・友だちとさらに仲良くなるために、相手に伝わるよう工夫しながら、数を尋ねたり数えたりしている。 態・友だちとさらに仲良くなるために、相手に伝わるよう工夫しながら、数を尋ねたり数えたりしようとしている。

6 単元について

【教材観】

- ・新年度が始まり2ヶ月が過ぎたが児童たちはまだ学級全員の名前を覚えておらず、配りものをする際に「○○さんって誰?」と聞いてくることもある。また、昨年度同じクラスだった児童としか話が弾まない様子も見受けられる。そこで、単元のゴールの言語活動として「いくつかなクイズ大会」を設定することで、単元を通して様々な児童とコミュニケーションを図り、仲を深めるきっかけとしたいと考えた。
- ・毎時間の始めに指導者が様々な「いくつかなクイズ」を出す。数種類のクイズを通して、How many?のフレーズや数を数えることに慣れ親しめるようにしていきたいと考える。また、児童が単元終末の言語活動でどのようなクイズを行うのか考える際にヒントにしたい。第1時では、いくつかなクイズのスライドを見せながら、「Many fruits! How many oranges? Let's count.」と言ってみかんの数を児童と一緒に数える。このように、単元の初めから、指導者が単元終末の活動を意識して表現や語彙を用いることで、児童が自然に慣れ親しめるようにする。

- ・How many?は、2年生にとってあまり耳慣れたフレーズではない。そこで、普段の学校生活の中で、プリントを配る際に前列の児童に How many?と聞き、列の人数を言った後にプリントを渡すことで、数を尋ねる言い方に慣れ親しんでいくようにする。
- ・本時である第5時では、「いくつかのクイズ大会」を行う。その前に、児童が How many?の言い方に慣れ親しめるように、指導者とやり取りを行う。クイズ大会では、ただクイズを楽しむだけでなく、中間交流で、「さらに仲良くなるために」というめあてに立ち返り、リアクションや声の大きさ、表情といったコミュニケーションのポイントにも触れられるようにしたい。

【児童観・指導観】

教科に関わる児童の実態	児童の実態に対する具体的な手立てや支援
<ul style="list-style-type: none"> ・聞くことについては、聞きなれない表現が出てくると自分で想像する前に、すぐに指導者に聞いてしまう児童がいる。 ・話すことについては、みんなで一斉に言う時には自信をもって言える児童が多い。しかし、1人で話すと極端に声が小さくなったり表現や語彙があいまいになったりする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話す際にはジェスチャーを使って話すことで意味をくみ取れるようにする。 ・繰り返し表現や語彙を聞くことや、英語の意味を理解することで何を言っているか聞き取れるようにする。 ・一人で言う前に十分にチャンツで慣れ親しんだり指導者が繰り返し口にしたりすることで、聞き慣れてから話せるようにする。
目指す資質能力に関わる児童の実態	児童の実態に対する具体的な手立てや支援
<ul style="list-style-type: none"> ・挙手をする児童は多いが、声の大きさや話し手の方を見るなど相手を意識して話すことが難しい。 ・自分の意見をもつことが難しい児童が一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話すときには体の向きを意識するよう声かけをし、聞き手には話しやすい雰囲気を作るよう反応しながら聞くように指導している。 ・全体交流の前にペアで話す時間を取り、友だちの意見を参考にしながら自分の意見を持てるようにしている。 ・受け身になっている児童がいるので、児童が「聞きたい」「伝えたい」と思うようなしかけを作る。(例えば、ゴールの活動を児童に見せ、意欲を高めるなど。)

7 指導計画（4時間）【指導のポイント ㊦手立て !配慮事項 ㊧他教科との関連 ㊨個別支援】

時	☆Today's goal ○学習活動	指導のポイント	評価
1	☆1から10までの数の言い方を聞いたり言ったりしよう。 ○歌 Hello Song を歌う。(Hi, friends! 2指導計画準拠デジタル教材、以下、HF2 デジタル教材) ○いくつかのクイズに答える。(HF2 デジタル教材「いくつかのクイズ」のスライド1) ○単元終末の言語活動（友だちとさらに仲良くなるために「いくつかのクイズ大会」をする）を知る。 ○歌 Ten Steps (前半の1～10まで) (Let's Try! I P.10 Let's Sing) ○友だち集めゲーム（指導者が言う数を聞いて、その人数で集まる） ○チャンツ How many balls? (Hi, friends! I P.12 Let's Chant)	㊦デジタル教材「いくつかのクイズ」のスライド1を見せ、 How many oranges? Let's count. One, two ... と言って児童と一緒に数える。同様にバナナやメロンも数える。 単元終末には、友だちとさらに仲良くなるためにいくつかのクイズ大会を行い、数を尋ねたり数えたりすることを知らせる。	
2	☆1から10までの数の言い方や、数の尋ね方を聞いたり言ったりしよう。 ○歌 Hello Song ○「いくつかのクイズ」に答える。 ○歌 Ten Steps (前半の1～10まで) ○チャンツ How many balls? ○簡単な「いくつかのクイズ」をする。	㊦箱を見せて What's this? Yes, a ball. How many? と尋ね、中のボールをみんなで数えるようなやり取りを楽しむ。 箱以外にも封筒や透明のビンなどに入ったクイズを通して数を数えることに慣れ親しむ。	

3	<p>☆1から10までの数の言い方や、数の尋ね方を聞いたり言ったりしよう。</p> <p>○歌 Hello Song を歌う。</p> <p>○「いくつかのクイズ」に答える。</p> <p>○いくつといくつゲーム</p> <p>○チャンツ How many balls?</p> <p>○「いくつかのクイズ」を作る。</p>	<p>㊦ゲームを通して数を尋ねる表現に慣れるようにする。</p> <p>㊦これまでに指導者が行ったクイズの中から、好きな形式を選ぶようにする。</p>	
4	<p>☆数を尋ねたり数えたりしよう。</p> <p>○挨拶をする。</p> <p>○「いくつかのクイズ」に答える。</p> <p>○ペアで、「いくつかのクイズ」をする。</p>	<p>㊦指導者とのやり取りが、次のペア活動につながるように進める。</p>	
5	<p>☆友だちとさらに仲良くなるために、数を尋ねたり数えたりしよう。</p> <p>○挨拶をする。</p> <p>○いくつかのクイズに答える。</p> <p>○指導者と代表者のやり取りを見る。</p> <p>○「いくつかのクイズ」を出し合う。(前半)</p> <p>○中間交流をし、前半の活動を振り返る。</p> <p>○「いくつかのクイズ」を出し合う。(後半)</p>	<p>㊦「いくつかのクイズ」の前に、全体でやり取りを行い、数の尋ね方を確認する。</p> <p>㊦「さらに仲良くなるためのやり取り」を紹介した児童には、理由も尋ね全員で共有する。</p> <p>㊦後半の活動前に、全員に対して「がんばりたい工夫を決めましょう」と促し、活動後の振り返りでは「自分がやった工夫を友だちはどう感じたか」を尋ね、相手意識を働かせることよき気付くようにする。</p>	<p>聞：知技・思・態 友だちとさらに仲良くなるために、相手に伝わるように工夫しながら、数を尋ねたり数えたりする表現を観察する。</p> <p>話[や]: 知技・思・態 友だちとさらに仲良くなるために、相手に伝わるように工夫しながら、数を尋ねたり数えたりしている姿を観察する。</p>

・聞：知技・思・態

「友だちとさらに仲良くなるために、相手に伝わるように工夫しながら、数を尋ねたり数えたりする表現を聞いている姿」

【4、5時間目】

8 本時について（5/5）

（1）目標

友だちとさらに仲良くなるために、数を尋ねたり数えたりする。

（2）展開

過程	児童の活動	指導者の活動	◇支援 *留意点㊦個別支援
5分	<p>○挨拶をする。</p> <p>Hello.</p> <p>I'm...</p> <p>○めあてを確認する。</p>	<p>○挨拶をする。</p> <p>Hello, everyone.</p> <p>How are you?</p> <p>○めあての確認をする。</p> <p>Today's goal, 1, 2.</p>	
	友だちともっと仲良くなるために、数を尋ねたり数えたりしよう。		
		Today's plan.	◇本時のめあてや活動の流れを確認することで、見通しをもって活動できるようにする。
7分	○いくつかのクイズに答える。 対話	○いくつかのクイズを出題する。	◇クイズを通して、数の数え方や尋ね方を確かめ、次の活動に自信をもって臨めるようにする。

5 分	<p>○指導者と代表者のやり取りを見る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T: Hello. S: Hello. T: How many? S: Five? T: No. Close. Up, up! S: Seven? T: Let's count. One, two, three...six! (一緒に数える) S: わー、おいしい! T: Nice try! Thank you. See you. S: See you.</p> </div>	○代表者とやり取りを出し合う様子を示す。	<p>◇代表者とやり取りを示すことで、活動の進め方が分かるようにする。</p> <p>*本時の目的を確かめてからやり取りを見るようにする。</p> <p>*当てるまででやるのではなく、仲良くなるためにクイズを楽しむよう伝える。</p>
6 分	<p>○いくつかのクイズを出し合う。(前半)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>S1: Hello. S2: Hello. S1: How many? S2: Eight? S1: (首を振って) Down, down! S2: Six? S1: One, two, three...six! S2: やったー! S1: See you. S2: See you.</p> </div>	○ペアを作り、出題者と回答者に分かれて活動するよう促す。	<p>*児童が How many balls? と尋ねたり、Ten balls. と答えたりすることは求めないが、言っている児童がいたら褒めて認めるようにする。</p> <p>*相手と仲良くなるために工夫してやり取りしたことを中間交流で紹介することを伝えておく。</p> <p>*指導者は仲良くなるための工夫を行っている児童を見つけ、中間交流で紹介できるようにする。</p>
10 分	<p>○中間交流をし、前半の活動をふり返る。</p> <p>活動の中で、仲良くなるために工夫したところを発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> 一緒に数えたら楽しかった。 正解した時にGood!と言っていた。 	<p>○中間交流をする</p> <ul style="list-style-type: none"> 前半の活動を振り返り、相手と仲良くなるためにやり取りを工夫していたところや難しかったところを聞く。 紹介された児童になぜそうしたのか理由を尋ねてやり取りを工夫することでより仲良くなり楽しく活動できることを意識づける。 後半の活動に生かしたい工夫を決めるよう促す。 	<p>*笑顔、目を見る、一緒に数えるなどのコミュニケーションポイントが友だちと仲良くなるために大事なことだと気付くようにする。</p> <p>*中間交流で出てきた工夫を確認して後半の活動にどれを生かすのか決めてから活動を再開する。</p>

10分	<p>○いくつかのクイズを出し合う（後半）</p> <p> SI: Hello. S2: Hello. SI: How many? S2: Eight? SI: (首を振って) No. S2: Hint, please. SI: Down, down! (ジェスチャーをしながら) S2: Six? SI: Let's count. せーの、 SI, S2: (一緒に) One, two, three...six! SI: OOsan, Good! S2: Thank you. SI: Goodbye. S2: Goodbye. </p>	○スムーズにペアができるようにしておく。	自分ではなかなか数を尋ねられない児童には、話し方をアドバイスする。
2分	<p>○本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。</p> <p>○挨拶をする。</p>	○挨拶をする。	*児童の英語を使おうとする態度についてよかったところを称賛する。

(3) 評価（記録に残す評価）

聞：思態	「友だちとさらに仲良くなるために相手に伝わるよう工夫しながら数を尋ねたり数えたりする表現を聞いている姿」
「おおむね満足できる」状況と判断できる「発言」	
思	友だちとさらに仲良くなるために、数を尋ねたり数えたりする表現を聞いて意味が分かっている。
態	友だちとさらに仲良くなるために、数を尋ねたり数えたりする表現を聞こうとしている。

(4) 板書計画

いくつかのクイズをしよう					
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">Today's goal</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Today's plan</div>	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10
<div style="border: 1px solid black; height: 150px; margin-top: 10px;"></div>					

(5) 対話のモデル

対話のねらい

- ・ 1～10 までの数を言ったり聞いたりする。
- ・ How many?の表現に慣れ親しむ。
- ・ 仲良くなるための工夫（ジェスチャーや一緒に数えるなど）を、自然に見せる。

T: Let's start "How many quiz". あれ、これは何かな？

S: ボールだ！なんでこんなところに？

T: Yes. Red ball. ここにもあるよ。(児童の机の中から取り出す) How many red balls?

S: あ、ホワイトボードの上にある！

S: ここにもあるよ！

S: (口々に) One, two, three, four...

T: まだあるよ。探してみて！

S: これだけかなあ。

T: OOsan, how many red balls?

S: Three?

T: Close. おしい！こんなとき、なんて言ったらいいんだっけ？

S: Hint, please.

T: Yes. (教室の周りを歩き) Look around. Let's count. One, two, ...

S: (みんなで) One, two, three, four ...eight!

T: How many red balls?

S: Eight!

T: That's right!

S: やった！もう一回！

T: Ok. じゃあ今度は問題をみんなで出そうか。誰に答えてもらおうかなあ・・・。○○先生、Please come here.

T: Any volunteers?

S: はい！やりたい！

T: ボールを箱の中に入れてください。みんなも何個入っているか見てね。

S: (ボールを箱に入れる)

T: Ok. じゃあみんなで○○先生に聞いてみようか。なんて言うんだったっけ？

S: (みんなで) How many?

T: じゃあ、みんなで○○先生にたずねてみようか。1, 2...

S: How many (balls)?

○○先生: Nine?

S: (口々に) 違う！No! おしい！

○○先生: Hint please.

S: (ジェスチャーをしながら) Down, down.

○○先生: Seven?

T: じゃあ、みんなと○○先生で数えてみようか。Let's count. せーの、

S: One, two, three ...eight!

○○先生: あー残念。

T: ○○先生、Nice try! Thank you!

○○先生: Thank you!